



紫蘇 (シソ)



岩崎灌園『本草図譜』に描かれた紫蘇

シソ科の一年草。中国南部からヒマラヤ地域にかけてが原産地で、広く栽

培され、日本で最も古い野菜の一つ。縄文時代の遺跡からも種子が発見されている。

後漢末の薬物書『名医別録』に無毒にも有毒にもなる養生薬の「蘇」として収載されている。古くはもっぱら種子を用いていたようであるが、宋代には葉、茎、種子がそれぞれ蘇葉（紫蘇葉）、蘇梗、蘇子（紫蘇子）として薬用に供され、いずれも発汗、解熱、下気（降気）、鎮咳、鎮静、健胃、解毒薬などとして用いられ、魚蟹中毒の解毒には蘇葉がもっともよいとされる。日本薬局方では葉と枝先を合わせて生薬「蘇葉」と規定している。

子宮内膜症と漢方治療

漢方診療部 医長 森 裕紀子

多くの女性が悩む月経困難症の原因の一つに子宮内膜症があります。子宮内膜症は、「子宮内膜およびその類似組織が子宮内膜層及び子宮体部筋層以外の骨盤内臓器で増殖する疾患」と定義されます。発生機序は確定していませんが、妊娠によって軽快し、月経によって悪化します。昔と比べ晩婚化で出産の回数が減ったため女性が一生の間に経験する月経の回数が増え、子宮内膜症の患者さんは増加しています。月経のある女性の1割に子宮内膜症を認めると推定され、漢方外来にも多く受診されます。症状は、月経痛、慢性下腹部痛、らんそうのうしほ卵巣嚢腫（チョコレート嚢腫）などで不妊症の原因にもなります。

子宮内膜症という病名は古典には記載されていませんが、子宮内膜症と思われる記載はあります。漢方では子宮内膜症をおけつしようじょう瘀血症状と考へて、とうにん駆瘀血剤を中心に処方します。桃仁（バラ科モモの種子）や牡丹皮（ボタン科ボタンの根皮）という駆瘀血作用の植物性生薬を含む桂枝茯苓丸はよく使われます。妊娠希望の方は駆瘀血剤によって流産するのではないかと心配されますが、安心して服用し、妊娠反応が陽性になったら中止にしてください。妊娠反応は受精して2週間と数日後に陽性になります。この極初期の2週間は薬の影響はほとんど

受けないと考えられています（抗がん剤など特殊な薬は除きます）。下剤で知られている大黃（タデ科ダイオウの根茎）もだいおう駆瘀血作用があるので、便秘の方は大黃を含む処方を用いることがあります。長い時間をかけてできた子宮内膜症、つまり古い瘀血を取り除く生薬として、当研究所では水蛭（ヒルド科ウマビルの乾燥）など動物性生薬も扱っています。煎じ薬だからできる処方です。独特の臭いがありますが、効果は大です。希望する方は主治医と相談してください。子宮内膜症の程度に関係なく、冷え症の方は月経痛や慢性下腹部痛がより強くなります。当帰（セリ科トウキの根）などで体を温めて血を補って痛みを和らげます。当帰を含む処方には当帰建中湯や折衝飲（桃仁・牡丹皮を含む）があります。さらに冷えや痛みが強い場合はぶし附子（キンポウゲ科トリカブトの根塊）を用いることもあります。胃が弱かったり、ストレスがあつたり、疲れていたり、同じ子宮内膜症の方でも一人ひとり体質が違います。それに合わせて漢方治療は行い、痛みを改善させるとともにこれらの症状の改善も一緒に行います。

子宮内膜症の症状は漢方治療で改善します。チョコレート嚢腫が消失した方もいますが、残念ながら大きく腫大した場合は効果を認めないこと

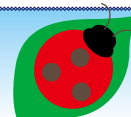
も多いです。そのため西洋医療の選択を勧める場合があります。西洋医学ではLEP (Low dose Estrogen Progestin) 製剤などホルモン製剤を長期間服用することで子宮内膜症の進行を遅らせ、卵巣嚢腫を縮小させます。しかしホルモン製剤は排卵を抑制するため、妊娠希望中の方は服用できません。ホルモン製剤で吐き気やむくみ、頭痛という副作用で服用できない方もいます。胃腸

が弱い方、漢方でいう「気血水」の「水」の調整が悪い方は副作用が強くなりやすいです。この場合は漢方薬で体質改善しながらホルモン製剤を併用してはどうでしょうか。日本は西洋薬と東洋医学の漢方治療が同時に使用できます。ご自身の状況(年齢、症状、挙児希望の有無)に応じ、どの治療法がいいかを選んでいただけたらと思います。

最新 漢方研究の世界

生薬の化学的品質評価

薬剤部門 白 畑 辰 弥



本研究所では、科学技術振興機構(略称JST)等の支援を受けてセンターオブイノベーション(COI)プログラムという国家プロジェクトに参加し、情報通信技術(ICT)を利用して修得が難しい漢方診断のロジック(論理的思考過程)や熟練を要する生薬の品質鑑別を形式知化(見える化)する取り組みを行っております。今回は、生薬の品質鑑別の形式知化のお話について述べたいと思います。

漢方薬の原料となる生薬の供給は約8割を中国からの輸入に頼っています。近年の伝統医学の見直しによる生薬の需要の高まりから、これまで国外で栽培生産されてきた生薬を国内栽培に切り替える「生薬国産化」の試みが実施されています。従来、国外で生産され日本で臨床使用されている生薬と国内生産した生薬の間に化学的同等性が担保されれば、臨床的な効果に影響することなく国産生薬に切り換えることも可能となります。そこで私たちは、生薬の化学的品質評価が「生薬国産化」の推進に必要であると考えて本研究を行っています。

生薬は天然の植物、鉱物、または動物の一部を用いるので含有される成分が多く、一つの成分だけを分析するのでは、生薬の薬効に関わる部分を分析できません。そのため含有される化学成分の網羅的解析が必要です。近年では化学分析技術の発達に伴い、網羅的化学分析を簡便に行うことが可能となっています。

このような生薬の化学的品質評価の一環として、福井県高浜町に自生するゴシュユの分析を実施しております。ゴシュユは晩夏から初秋に少し赤く色づいた果実を収穫し乾燥して使用します。江戸時代にはゴシュユは国内で栽培されていましたが、現在では、ほとんどを中国からの輸入に依存しており、国内での栽培ノウハウが失われていました。特に収穫時期を誤ると飲みにくさに起因する苦み成分やえぐみ成分が多く含まれることとなります。そこで高浜町の方の協力のもと、二週間おきに収穫したゴシュユを網羅的に化学分析し、有効成分が多く一番苦み成分やえぐみ成分の含有率が少ない時期を決定し、国産ゴシュユの臨床使用に一步近づくことができました。



ゴシュユの果実

生薬は先人の智慧に基づいて栽培や修治(薬用に加工すること)の条件が決定され、品質が管理されてきましたが、そのノウハウは見える形では存在しませんでした。しかし、私たちは現代の化学分析機器を用いて、以上のように生薬の品質鑑別を形式知化(見える化)することができました。このような取り組みを他の生薬でも続けていき、安心安全で品質の良い生薬を国内で生産できるように取り組んでいきたいと思っております。

生薬豆知識

シソ 紫蘇

副所長(兼)・薬剤部部門長

小林 義典



シソには品種や変種が多く、茎葉が暗紫色のアカジソ、緑色のアオジソ、葉の表面が帯紫緑色で裏面

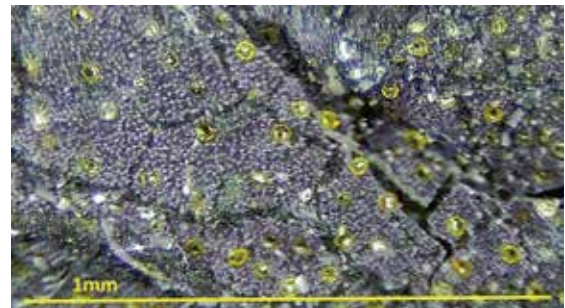
が赤紫色のカタメンジソ、葉にしわが多く縮緬状に縮れて暗紫色のチリメンジソ、緑色のチリメンアオ

ジソなどの品種がある。エゴマも変種の一つである。和食において、アカジソの葉は梅干しや生姜漬けの着色に、また乾燥葉を細かく刻んでふりかけ（ゆかり）に、アオジソの葉は料理のつまや薬味だけでなく和え物やてんぷらにも、花穂は料理のつまや薬味、未熟な果実はつくだ煮や塩漬に利用される。シソが刺身のつまとして定番となっているわけには、前述の魚蟹の毒を解く効が関与していると思われる。アカジソの紫色シソニンというアントシアニン系の赤ジソ色素によるが、この色はアルカリ性で青みを増し、酸性で赤みを増す。これが、クエン酸を多く含む酸性の梅に紫色の赤ジソを合わせると、鮮やかな赤色を呈する所以である。また、アピゲニンやルテオリン、ロズマリン酸などのポリフェノールも含有しており、いずれも抗炎症作用や抗アレルギー作用、抗うつ作用を示す。

シソ特有の香りは、シソ精油中のペリラルデヒドによる。ペリラルデヒドにも抗うつ作用が知られている。一般に、シソ科植物は、葉の表面を軽く指で擦ると強い香りがするが、これは精油が葉の表面に無数に存在する腺鱗と呼ばれる袋状の組織に蓄積されており、指で擦るとこれが潰れて中の精油が出てくるためである。乾燥した生葉でもルーペで拡大してみると、無数の腺鱗を観察できる。日本薬局方では生葉の乾燥物あたりペリラルデヒド0.08%以上を含むことが規定されている。生葉「蘇葉」の原料としては、葉の両面が紫色でペリラルデヒドの芳香が強いチリメンジソが良いとされ、ア

オジソ、チリメンアオジソは用いられない。「蘇葉」は、香蘇散、半夏厚朴湯など、気の滞り（気うつ）に対して用いられる代表的な気剤に配合される。

一方、成熟した種子はオメガ3系多価不飽和脂肪酸である α -リノレン酸を多く含み、特にエゴマの種子油はエゴマ油（シソ油）として利用される。 α -リノレン酸は、体内では生成されないため食品から摂取しなければならない必須脂肪酸の一種で、体内でDHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）などのオメガ3系多価不飽和脂肪酸を作る原料となる。DHA、EPAは、特に青魚に多く含まれる血液サラサラ成分として知られ、閉塞性動脈硬化症や高脂血症の改善を目的とした医薬品成分としても利用されている。一般に、肉類に多く含まれるオメガ6系脂肪酸の摂取が多過ぎると、血圧上昇や動脈硬化、認知機能低下、炎症やアレルギー症状の悪化などのリスクが高まるが、オメガ3系多価不飽和脂肪酸にはこれらを抑制する効果が期待できる。このような成分を含む「蘇子（紫蘇子）」は、虚弱体質の気管支炎や気管支喘息に用いられる蘇子降気湯、喘四君子湯などの降気剤に配合される。



生葉「蘇葉」の拡大写真（黄色い粒が腺鱗）

ツボの効用 ひょう 飛揚

鍼灸診療部 伊藤 雄一



ふくらはぎの外側、腓腹筋外側頭（ふくらはぎの外側の筋肉）の下縁とアキレス腱との間で、ひとが飛び揚がる時に、大きな力のかかるところにあるのが飛揚です。図1に示したように、外くるぶしからひざの折れ曲がるところまでの長さの半分よりやや下の高さにあります。



図1、飛揚の位置

飛揚は足太陽膀胱経あしのたいようぼうこうけいという経脈に所属しています。足太陽膀胱

経は、図2に示したように、眼の内側から始まり、頭頂に上ってから、後頭部、後頸部を通過して背中、腰、殿部、下肢後面を下って、足の第五趾にまで至っている経脈です。この経脈の異常は、鼻血、眼疾患、頭痛、後頸部痛、背骨の痛み、腰痛、下肢の運動障害、ふくらはぎの痛み、などを引き起こしますので、こういった症状に飛揚への鍼やお灸などによる効果が期待できます。

また、この足太陽膀胱経の走行上には、肩甲間部から腰殿部にかけて、五臓六腑の各々に関連の

深いとされる経穴（背部俞穴^{はいぶけつ}）が、後正中線の外方一寸五分（およそ指二本分の幅）のところ縦に並んでいます。これらの背部俞穴のコリなどは、それぞれに対応する内臓の働きを悪くしている可能性もあるので、脊中の周囲の筋肉などをほぐしておくことは、五臓六腑の働きを整えるといった意味でも重要です。直接背中を指圧やマッサージによってほぐすことも効果的ですが、それと同時に飛揚への刺激も加えると、足太陽膀胱経を介して、間接的に背部への指圧やマッサージの効果を高めることが期待できます。

また、3世紀後半に記されたとされる医書『鍼灸甲乙経』では、飛揚について次のように書かれています。

「足太陽の別、名づけて飛揚という。踝を去ること七寸、別れて少陰に走る。」

足太陽（足太陽膀胱経）が別れるところを飛揚といい、外くるぶしから上に七寸のところ、別れて少陰（足少陰腎経^{あしのしょういんじんけい}）に連なる、という意味で、飛揚は足太陽膀胱経だけでなく、その表裏関

係にある足少陰腎経にも影響を及ぼすということが記されています。足少陰腎経の異常では、空腹なのに食欲がない、顔色が黒ずみ光沢がない、咳をしたときの痰に血が混じる、座った状態から立ち上がったときに目がくらむ、などといった症状が現れやすいといわれていますが、この経脈の治療としても、飛揚への刺激が助けとなります。

このように、飛揚はとても守備範囲の広い経穴で、様々な疾患に対する効果が期待できます。

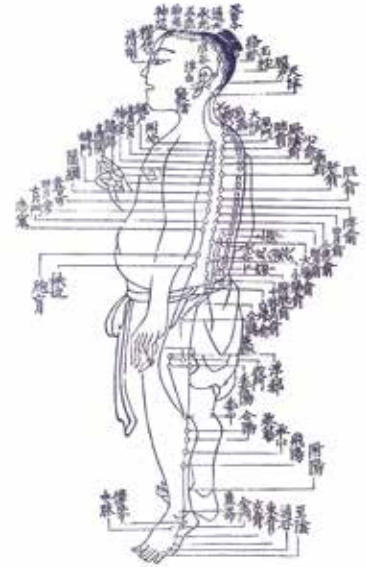


図2、足太陽膀胱経

東洋医学総合研究所 漢方鍼灸治療センター 外来案内

漢方科 2019年4月～						
	月	火	水	木	金 土 ^⑤	
午前	花輪 ^① 星野 石毛	花輪 鈴木 森(裕) 石毛	花輪 ^② 川鍋 石毛 齋藤	花輪 小田口 森(瑛)	伊藤(剛) 鈴木 星野 森(裕)	小田口 及川 鈴木 星野 森(裕) 川鍋 石毛
午後	森(裕) 川鍋 丸山 【冷え症外来】 鈴木	伊藤(剛) 鈴木 川鍋 伊東	星野 石毛 遠藤	小田口 ^③ 及川 ^④ 五野 森(瑛)	星野 森(裕) 伊東 遠藤 【冷え症外来】 伊藤(剛) ^⑤	

休診日：日曜日・祝祭日・年末年始(12/29～1/3)
ホームページ：http://www.kitasato-u.ac.jp/tou-i-ken/

鍼灸科 2019年4月～						
	月	火	水	木	金 土 ^⑤	
午前	伊藤(剛) 黒岩 石原	柳澤 井田 石原	石野 井田 黒岩 石原	伊藤(剛) 伊藤(雄)	伊東 黒岩 近藤 石原	伊東 井田 黒岩 伊藤(雄) 近藤
午後	井田 近藤 石原	黒岩 伊藤(雄) 近藤 石原	伊東 伊藤(雄) 近藤 石原	井田 黒岩 伊藤(雄)	伊藤(剛) ^② 井田 伊藤(雄) 石原	

※黒字は男性医師または男性鍼灸師
赤字は女性医師または女性鍼灸師
※専門外来では一般の患者様の診療も行っています。

- ① 月曜日午前の花輪医師の外来は、初診の方のみとなります。
- ② 水曜日午前の花輪医師の外来は、第2が休診となります。
- ③ 木曜日午後の小田口医師の外来は、第4が休診となります。
- ④ 木曜日午後の及川医師の外来は、第2木曜日のみとなります。
- ⑤ 金曜日午後(第1・3)の伊藤(剛)医師の冷え症外来は初診のみとなります。
- ⑥ 土曜日の外来は、交代制となります。スケジュールはホームページまたは予約電話へお問合せください。
- ⑦ 金曜日午後の伊藤(剛)医師の外来は、第2・4のみとなります。

予約電話：03-5791-6169
(月～金) 8:30～17:00
(土曜日) 8:30～12:30
お薬に関するの問い合わせ：
03-5791-6167
その他のお問い合わせ
代表：03-3444-6161

初診受付時間

漢方科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:30	8:00～10:30
午後	12:50～15:00	

鍼灸科	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～10:00	8:00～10:30
午後	12:50～14:30	

再診受付時間

漢方・鍼灸	月～金曜日	土曜日(午前のみ)
午前	8:00～11:00	8:00～11:30(鍼灸) 8:00～12:00(漢方)
午後	12:50～15:30	

漢方ドック

月～金(完全予約制)
9:00～15:30



WEBサイト